

江津市 1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末をはじめとするICT環境によって実現をめざす学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申等の内容を踏まえ、児童生徒がタブレット端末を活用することにより、一人一人の個性とペースに合わせた学習が可能となった。

これにより、子どもの特性や興味関心に応じて子ども自身が学習を進める「個別最適な学び」や、複数の児童生徒が協力し合いながら、お互いの知識や経験を共有し協働で学習を行う「協働的な学び」を実現していく。

2. GIGAスクール構想「第1期」の総括

江津市では令和2年度に児童生徒全員分のタブレット端末及び通信環境の整備を実施するとともに、学習支援ソフトやタブレットドリルなどを導入し、児童生徒自らが調べ、発表や意見交換を行うなど、日常的に学びのツールとして活用できるよう整備してきた。

また、学校における利活用を進めるため、校長会と共同で「江津市版のGIGAスクール全体構想」を定め、江津市が目指す子どもの姿を明確化するとともに、情報活用の目標リストにより、学年ごとの到達目標を示し、全教職員に周知した。

更にタブレット端末の持ち帰りを進めるため、WiFi環境のない世帯にモバイルWiFiルータを無償で貸し出している。これにより在宅でもタブレット端末を活用した学習ができるとともに在宅から授業等への参加が可能となっている。

一方、タブレット端末導入後、4年が経過したことにより、機器の破損や故障など不具合が生じてきているため、タブレット端末の更新は必須である。

3. 1人1台端末の利活用方策

江津市では、タブレット端末の利活用を進めるため、目指す姿を明らかにするとともにICT支援員を配置し、教職員及び児童生徒の支援にあたっている。

また、先進地視察の実施や先進地の各種活用事例や市内の学校での様々な取り組み状況についても教職員向けの共有フォルダに格納し、いつでも見ることができるよう整備している。

さらに、AIドリルを導入し、子どもたちが躓いているところまで戻って学習ができるよう整備を行っている。

今後は、多様な子どもへの対応や健康相談の実施などと併せ、自立的な学習者の育成を更に進めるとともに、児童生徒が自ら選択して様々な場面でタブレット端末を活用できるよう学習の進め方について深めていく。